

令和５年度 第３回長浜市健康づくり推進協議会 要点録

日 時：令和６年１月３１日（水）１５：３０～１７：３０

場 所：市役所本庁舎３階 ３-B 会議室

【出席者】

| | | |
|---------------------|---------|-------------|
| 一般社団法人 湖北医師会 | 森上 直樹 | 会長 |
| 一般社団法人 歯科医師会 | 澤 秀樹 | 副会長 |
| 長浜市立湖北病院 | 岩井 幸 | 医療安全管理室室長 |
| 長浜赤十字病院 | 楠井 隆 | 院長 ◎ |
| 滋賀県湖北健康福祉事務所 | 嶋村 清志 | 所長 ◎ |
| 長浜市連合自治会 | 岩崎 哲 | 古保利連合自治会副会長 |
| 長浜市小中学校教育研究会養護教諭部会 | 小島 智子 | 養護教諭 |
| 長浜市民生委員児童委員協議会 | 吉田 隆浩 | 理事 |
| 社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会 | 大橋 知子 | 介護事業部長 |
| 特定非営利活動法人健康づくり０次クラブ | 大橋 香代子 | 副理事長 |
| 長浜市健康推進員協議会 | 佐分利 ますみ | 会長 |

* ◎：オンラインでの参加

【欠席者】

| | | |
|---------------|-------|-----------|
| 一般社団法人 湖北薬剤師会 | 大森 徹也 | 副会長 |
| 市立長浜病院 | 草野 美樹 | 地域医療連携室参事 |

【事務局】

| | |
|-------|--|
| 健康福祉部 | ：横田部長 |
| 健康企画課 | ：元村課長、井口課長代理、井上副参事、大谷主幹、森本主査 |
| 健康推進課 | ：小寄課長、國友副参事、濱田副参事、服部副参事、 西村副参事、勅使河原係長、山田主幹、植田主幹、 谷本保健師 |
| 地域医療課 | ：前田担当課長、川越係長 |

【傍聴者】

１名

【要点録】

1. 開会（挨拶：健康福祉部長）

2. 委員自己紹介

3. 健康づくり推進協議会について

- ・長浜市健康づくり推進協議会規則第2条（所掌事務）について説明
- ・委員出席者数の確認（委員11名/13名 出席）
規則第6条第3項により、過半数の出席があるため会議として成立

4. 議事

会長（森上委員）が議事進行
事務局より説明

（1）第5期健康ながはま21（健康増進計画、食育推進計画、自殺対策計画） 最終案について（審議） 資料1 資料2

意見・質疑応答等

委員：飲酒分野の取組について、身体に負担をかけない飲酒の仕方として食事の食べ合わせがあげられているが、計画上には具体的な記載はない。パンフレットで具体的に書くのか。

事務局：今後準備していく啓発パンフレット等で示していく。

委員：酒の感受性には個人差がある。不用意に食べあわせを強調し過ぎると顔が赤くなるが飲める位の人飲酒をすすめ、肝機能の悪化を招くようなことも考えられるため、パンフレットの内容が飲酒に対する免罪符にならないように注意してほしい。

委員：自殺対策計画に関して、当事者からの相談は難しい。周囲の人、学校の先生・上司などが支えていくことが大切。
ただし、学校の先生は自分自身が参っているので、そういう人を支える仕掛けも必要か。
震災の救護でも支援している人のメンタルを支える必要性があがっていた。当事者以外に支える側をどのように支えるかが今後の計画に盛り込まれても良いかと思った。

委員：誤字脱字や数値の修正はされるのか。

事務局：内容に影響のない範囲で修正する。

第5期健康ながはま21最終案について、協議会で審議し承認。
最終案を健康づくり推進協議会会長から健康福祉部長へ提出。

5. その他事項

(1) 第5期健康ながはま21 概要版について

事務局より、概要版（案）について説明 資料3 資料4

意見・質疑応答等

委員：主な評価指標の喫煙の部分の記載で18歳以上となっているが、法律では20歳以上で喫煙が可能である。表記の修正をしてほしい。

事務局：指摘のとおり、修正する。

委員：各世代における取組部分で、6歳から19歳の学童・思春期のところに20歳未満の喫煙・飲酒は法律違反と明記してはどうか。

法律違反と記載があると抑止力があると思う。

食育における『豊かな心の育成』部分で、私の子どもが通う学校では農業スクールでたまたま田や畑での体験があるが、無い場合は大規模農業と協力していければよいのではないか。

長浜市ではスクール農園をしているところはまだ少ない。

(2) 今後の健康づくりの展開について 資料5

意見・質疑応答等

委員：市の方では健康づくりの方針として多様な主体との連携・民間活力の活用をうたっているが、例えば町内会・自治会・ボランティア団体、学校、企業など全てが連携の対象となるのか。

また、必ずしも行政主導でなくて良いのか。

事務局：そのとおりである。

委員：そもそも令和元年に健康都市宣言を行った場が健康フェスティバルだが、約 8,000 人位の参加があった。

現状、買い物場での常設イベントの参加者が 3000 人超と多い状況であるが、以前行っていた健康フェスティバルは今後どうなるのか。今まで住民健診と企業健診がバラバラだったのが、精度管理の面で付き合わせながらやっていくという方針がでているようだ。

健診で問題があった場合の指導や生活習慣改善に関する情報提供方法など、各企業で取り組んでいたり、市で発信しているものがあるので、相互で情報交換を行い、より良くしていく方法を考えてはどうか。学校と言うのは関係者が多くいるので、学校や PTA を通じて啓発していくというのも一つのチャンネルになるかと思う。

年齢層や性別を考えながら最適な情報提供を考えていくのが良い。年金関係の手続きに来た人へフレイル予防のパンフレットを渡すというように、役所の窓口でもできることある。多角的に考察していく必要がある。

委員：健康フェスティバルについて、実施団体の会議で議題に出るが、準備に半年かかること、また新型コロナウイルス感染症が十分に落ち着いていないことから、令和 6 年度は開催しないという結果になった。

委員：最近、コロナも増加傾向であるが、来年くらいには開いて欲しい。

委員：各団体からも開催の要望があることを、所属団体の会議でも伝える。

委員：湖北口腔保健フェスティバルは、まだ完全ではないが昨年実施し、参加者として 1,000 人ほどが来られた。

コロナ前、市内量販店で歯周病健診と健康体操をしていた。補助の方がおられ、甲賀市の専門学校で学生さんが来てくださっていた。

どこの主催か忘れたが、あの時もフラットきたお客さんで結構な数が来られていたので、市内の大型量販店で健康づくりを行うことは良いと思う。

計画の構成では喫煙や飲酒、歯科と各分野に分かれているが、たばこいっぱい吸うと歯周病が増える、お酒を飲めばむし歯・歯周病にも影響する。関連性を持って我々もイベント時には啓発をしていきたい。口腔がんについて PR を始めている。堀ちえみさんの舌がんの公表で全国的に注目されたが、舌がんが増えている。口腔がんの健診もして

いってほしい。歯茎等にもがんはできるので、啓発していきたい。

委員：舌がんの健診は歯科医師がされるのか？

委員：歯科医師が行う。

委員：北部の方でもまちづくりセンターで毎年健康づくりのイベントが開催され、病院としても骨密度測定・血管年齢測定などのコーナーを出展している。

病院の出前セミナーで市内北部の高齢者団体に出向く機会がある。そのような場でパンフレットを渡せる機会になったりするのかなと思った。数は知れているが、そういう場所を一つの機会として活用できる。

委員：市内の量販店で実施とあるが、他の量販店でもやって欲しい。

普段の買い物はどこに行くか決まっている。市内北部からは、南部までなかなか来られない。北部でもやって欲しい。

健康体操を自治会でもやっており、村の中ではやっている人は多々あるかと。

高齢者が増えてきているので、集まる機会を増やす取り組みがあれば良い。自治会館は開放している。

自殺について、父が民生委員をしているが、自宅に閉じこもっている方への働きかけは、民生委員として踏み込むことが難しい。

市でも細かい部分で取り組みをして欲しい。自治会内でも自治会長や民生委員が動いているが、一般家庭への踏み込みは慎重にしなければならないので難しい。どの様な取り組みが良いのか、市で方向性を指し示して欲しい。

民生委員へ配られる資料はとても多い。一緒に読んだがとても大変。自殺に関して民生委員の関わりが多い。資料も簡単なものになると負担が軽減されるのではないか。もう一度読み直して欲しい。

委員：民生委員として医学的な知識がない中、様々な分野の中で気が付かなければならないというのは重圧になっている。そうは言うものの、普段市民と接しているからこそ何か気付くことが出てくる。

そのような時に行政とコミュニケーションをとり、相談ができれば良いと思う。

民生委員協議会の方でも、ケースの方で日常の変化があれば早急に行政や関係機関に相談していくよう内部でも指導していきたい。

委員：学童期の生活習慣・睡眠・たばこ・朝ごはんについて計画に書かれている。小中学生と毎日関わる中で、子ども達がそれぞれについて知識をもち、行動に移し、生活習慣を身に着けることは大切だと思っている。

学校でもアンケートをとって教育相談の機会等で指導をしているが、子どもによっては就寝時間が遅かったり、スマートフォンやタブレットの使い過ぎも見られる。

スマホ・タブレットで SNS を見ることができ、自由に検索できて、多くの情報が得られる。子どもが目の前の情報を正しい・正しくないと判断できる知識を持つことも大切である。

高学年になると心理的に不安定な子もいる。うつ傾向の子もいる。担任も関わるが、スクールカウンセラーの先生など色々な先生が関わっている。先ほど先生を支える支援が大切だとあったが、本当にそう思うので、今後そういう支援があると助かると思う。

学校でイベントのポスターをもらったり、見たりして行ってみようかなと思う子もいる。

イベントの呼び掛け等を PTA や学校の方でも実施できると、子どもたちが保護者と一緒に楽しく参加できる機会をよりつくれると思った。

委員：世代に関わらず、心の問題、お金の問題は相談先が決まっているが、生きづらさを抱える人は自分から声を上げることが大変なので、それをキャッチしてつなげていきたいと社協は考えている。聞き流さずにキャッチできる仕組みができないかと試行錯誤をしている。

市事業の重層的支援体制整備事業で、他機関が協力して、支援するとしているがなかなか進まないの、努めて進めていきたい。

市内の福祉ステーションの指定管理を受けているが、トレーニングマシーンを置いているところもある。口コミで近所の方が来られている。「地元で運動できる機会があるよ」と上手に PR できるとよいと思っている。

委員：昨今、フレイル予防が叫ばれている。力を入れてフレイル予防を PR してはどうか。

あまり社会参加されていない人に情報が行くようにしてほしい。

福祉ステーションのトレーニングマシーンの件、私は通っている人から聞いて知った。

健康寿命を大切にすれば、フレイル予防が大切かと思う。

人口も高齢化しているので、フレイル予防を重点的に入れられるとよい。

委員：東京には高齢者専門のジムがある。リハビリよりジムの方がカッコいいので通いやすい。

委員：健康推進員は現在 14 地区、会員は 282 人いる。

様々なイベントや健診会場に行って活動している。

地域でも学区ごとのフェスティバルや文化祭に行って活動している。

また、推進員が地域のサロンをされていたり、運動教室をやっていたり、幅広く取組んでいる。

活動方法はお隣さん、お向かいさん活動である。ごみ捨てや近所の清掃の機会をとらえ「健診に行った？体の調子はどう？」などと、ご近所の人と話し、口コミで誘うことができる。

医療の専門知識はないが、年数回のステップアップ教室や健康教室で知識を吸収して、色々な人に発信していく。

活動の記録を集計すると一年間で長浜市の約 2 万人の方に関わっている。

草の根活動として、市民と同じ視点で大切なことを、インフルエンサーのごとく広めていくことを健康推進員として大切に、市民の健康づくりに寄与していきたい。

委員：それぞれの活動をきいていると大変頼もしく思える。震災でも多様な主体の活動が見られた。大切なのは互いに顔の見える環境をつくっていくことである。

委員：県も 10 本以上の各種計画の改定あり、健康に関するものもある。

県もパブリックコメントが終わり、そろそろ内容が固まる。市も今後の活動において参考にしてもらえたら良い。

今後は市民に分かりやすく周知していくことが必要である。紙媒体だ

けではなく、電子化し市 HP へのアップや、youtube などの電子媒体を活用し、若者にも周知していただけるように、県の概要版も参考にしつつ、周知啓発に努めていただきたい。

委 員：学校の養護教諭の方をお願いしたい。

酒・たばこ・薬物・いじめ・SNS 関連など良くないことを友達が誘ってくるというシチュエーションがあり、断り切れない子どももいる。受け入れにくいことを実際に友達から誘われたときに、断るロールプレイ・訓練をたまにやってもらえると、健康を含めて自分を守る対策になるのではないか。

全国的に見ると取り組んでいるところがある。

一つの事象がはびこると、あれもこれもと学校の環境が悪くなる。

問題が小さい時に、悪いことは断るという訓練をすると、色々な場面に強くなる。

委 員：断れない子どもがたくさんいるので、今後も薬物乱用防止教室等で断るロールプレイ・訓練を取り入れていきたい。

6. 閉会（挨拶：健康企画課長）